

要点録

会議名	令和 6 年度第 2 回 多摩市地域福祉計画推進市民委員会
日 時	令和 7 年 1 月 16 日（木） 午後 6 時 ～ 午後 8 時
場 所	多摩市役所第二庁舎会議室
出席者	【委員】室田委員長、鈴木副委員長、千葉委員、小山委員、荒井委員、中村委員、清水部会員 【事務局】伊藤健康福祉部長、松崎福祉総務課長、川添福祉総務担当係長、関福祉総務担当係長、海老澤 【オブザーバー】多摩市社会福祉協議会畔上総務係長、荻野介護予防推進係長、宇都宮相談支援担当係長、関福祉総務担当係長、大釜
欠席者	川辺委員、鳶田委員
次第	1. 進行管理のスケジュール 2. 市民アンケート調査の概要報告 3. ロジックモデルに関するワークショップ 4. 第二次再犯防止推進計画日野・多摩・稲城 3 市共通理念について
会議内容	
事務局	1. 進行管理のスケジュールについて （資料 1 に沿って説明） 委員からの意見なし
事務局	2. 市民アンケート調査の概要報告 （資料 2・3 に沿って説明） 問 4 では前期高齢者、後期高齢者を細分化して確認しているため、問 2 も同様に区分してもらいたい。また、7 ページの成年後見制度のリード文について、障害を障がいに変更すべき。
事務局	修正する。
委員長 事務局	本アンケートをどのように中間見直しに活用していくか、簡単に説明してもらいたい。 再犯防止等の個別具体的な設問については、ロジックモデルの導入を予定しており、基礎的なデータとして活用したい。また、身近な地域の課題にどういった変化が起きているか、新たな地域福祉の手がかりとして活用したいと考えている。
委員 事務局	QR コードからも回答可能か。 可能である。
委員 事務局	民生委員に関する設問について、民生委員の欠員が生じている現状を踏まえ、アンケートを活用して取組内容のアピールをすることが望ましいのではないか。また、身の回りの方の相談状況、相談内容を問う設問があるとよいのではないか。 回答者本人だけでなく、身の回りの方の相談状況を問う設問は、修正可能である。また、民生委員の取組内容は、市公式ホームページでも掲載しており、関心を寄せていただけるように修正したい。 その他の修正は、1 月中にご意見いただきたい。

委員 委員長 部会員	3. ロジックモデルに関するワークショップ （資料３－１に沿って、清水部会員から説明） 理想論には誰も反対しないが、成果を出すには小さな取組の積み重ねが必要。将来に目を向ける中で、現実的な取り組みが必要。 現実的な取り組みとロジックモデルをどのように組み合わせたいけるか。 ロジックモデル作成時は理想論になりがちであるが、ロジックモデルを運用している中で、事業の意義や魅力、事業の中で感じる小さな変化等を補完しながら、理想に向けて事業を進めていくことが可能。 （資料３－２に沿って、高齢支援課、障害福祉課から説明後、２つのグループに分かれてグループワークを実施）
事務局 オブザーバー	①フレイル予防（高齢支援課）のグループ 「高齢者が幸福感を持っていつまでも暮らしている状態」について、主に２つの意見が出た。 一つ目は、健康で元気であること、美味しいものを食べて笑顔であること。 二つ目は、他者との関わりであり、受け身ではなく主体的に関わっていること。誰かに助けてもらおうのではなく、自ら参加することで人とつながり、自分から活力を得ることが大事との意見が挙げられた。また、地域の場合は小さな活動の積み重ねであり、気軽に参加できる場でのよいという意見があった。 ただし、現状はそうのように過ごせていない人もおり、その要因は性差、気軽に行ける場所や居場所がないことが考えられるのではないかと意見が挙げられた。 最終アウトカムが個人に着目したものであったが、気軽に行ける場所がある地域、人とのつながりがある地域という、地域の視点を踏まえて考え直す必要があると感じた。すごく参考になった。
事務局 オブザーバー	②障がい者の差別解消（障害福祉課）のグループ 「障害があっても差別されることがなく安心して生活を送れること」のうち、「どこで誰とどのように生活するかについての選択が尊重される。」について、そもそも自己決定が尊重されることが必要であるため、最終アウトカムに入れるとよいのではないかと意見があった。 続いて、「社会を構成する一員として経済、文化その他のあらゆる活動に参加する機会が確保されること。」については、社会を構成する一員として、地域の中で混ざり合って生活することが必要である一方、障がい者への偏見があることや触れ合う場所が少ないことが課題という意見もあった。そのため、参加する機会が確保されることについては、参加することへのハードルを感じる方もいるため、参加する機会を設けるだけでなく、参加に向けたフォローアップが重要との意見があった。 最後に、「障がい者及び障がいのない者が多様性を相互に認め関わり合い協力して取組、将来世代へ継承する。」については、ポッチャ等の取組に参加することで、それぞれの交流ができてくるのではないかと意見があった。 子どもの障害への理解が大切さを改めて感じた。 最終アウトカムについては現在大きな視点で設定しているが、もう少し小さな具体的な取り組みを盛り込んでもよいのではないかと感じた。また、現在のロジックモデルは能動的な方を

	前提としているが、そうでない方のサポートも必要と感じた。
委員長	正解がないため、正解に近づけることが重要なのではなく、市民と行政、自分たちの納得感を高めていくためのツールであり、有効な取り組みであるとする。
部会員	高齢グループからは、つながりがよく挙げた。資料2のアンケートでは、つながりを問う設問がないため、検討するとよいのではないか。 障害グループからは、混ざり合うことの必要性や場が必要という話があり、つながるためのハードルがあるという話があったが、高齢グループで挙げた居場所づくりともかかわる内容であった。 このように、異なる分野間でも似たような課題があり、地域福祉を考える上では、領域を超える意識を持ちながらブラッシュアップしていくとよいのではないか。
委員長	ロジックモデルの作成にあたり、地域づくりに向けて、各事業が独立して実施するのではなく、各事業が連携して実施することが重要。
事務局	4. 第二次再犯防止推進計画日野・多摩・稲城3市共通理念について (資料4・5に沿って説明)
委員	ハーフの方や、外国人の方の犯罪について、今後の計画を見通す中では必要な観点ではないか。ハーフの子が社会から取り残されている事例を耳にする。
オブザーバー	現状の計画で直接的には記載していないが、共通理念にあるとおり、さまざまな状況の方をとらえながら計画を策定していきたい。 5. 事務連絡 令和7年度の推進市民委員会の日程を連絡した。 評価部会の日程については、あらためてご連絡する。
	以上